

## 平成 23 年度 地域懇談会

平成 24 年 2 月 18 日(土)

午前 10 時～11 時 30 分

健康文化センター1階 多目的室

### 1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第 27 条による課題

ごみから資源再生へ ～ごみ問題の現状と展望を考える～

### 2. 対象地域

北地域(外坪・河北・上小口・中小口・下小口)

### 3. 懇談会パネリスト(9名)

外坪区長 舟橋孝昇	河北区長 大竹伸一	下小口区長代理 林部雅彦
議会議員 宮田和美	議会議員 丹羽 孝	株式会社バロー 田中浩幸
町 NPO 登録団体サラダボールカンパニー 遊佐弘毅		
中小口地区 松永宣子	下小口地区 西村里美	

### 4. 懇談会出席者(3名)

大口町長 森 進	地域協働部長 近藤定昭	環境課長 杉本勝広
----------	-------------	-----------

### 5. 司会進行

地域振興課長 平岡寿弘

### 6. 会議記録

地域振興課長補佐 佐藤幹広

**地域振興課長（平岡寿弘）** 地域懇談会のご案内をいたしましたところ、皆様方には大変お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。ただいまから地域懇談会を開催いたします。本日の司会進行を務めます地域振興課長の平岡です。よろしくお願いします。

この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長が議会、自治組織、その他さまざまなまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催するものです。本年度は「ごみ問題の現状と展望を考える」をテーマに、各種の取り組みや今後の展望に対して、ご意見を聞く機会としてまいりたいと考えています。本日は町長を座長に、座談会方式で進めさせていただきますので、よろしくお願いします。それではパネリストの皆さんを紹介させていただきます。

＜パネリストを紹介＞

**地域振興課長（平岡寿弘）** 環境課長の杉本より「可燃ごみ減量に向けた取り組み」について説明させていただきます。

＜環境課長、スライド「可燃ごみ減量に向けた取り組み」に基づき説明＞

**地域振興課長（平岡寿弘）** これより座長を中心に意見交換を行っていただきます。パネリストの皆さん、よろしくお願いします。

**町長（森進）** 環境課長からごみ減量 20%に向けた大口町の取り組みを説明させていただきました。しかし残念ながら、平成 17 年に町民の皆さんに宣言いただいた 20%の減量には達していません。

本日の懇談会は皆で議論を練り上げて方向性を出すというものではありません。現行の大口町のごみに係る取り組みの問題点を洗い出し、どうすればいいかというアイデアをお聞きするものです。普段それぞれの立場で感じておられることをご発言いただければ結構かと思っています。よろしくご協力をお願いします。

初めに、株式会社バローから事業所の取り組みを、次に NPO 登録団体サラダボールさんから外国人を対象に開催いただいた資源ごみ分別の説明会についてそれぞれのご紹介いただきたいと思えます。最初に株式会社バローの田中さん、よろしくお願いします。

**バロー（田中浩幸）** 私どもで取り組んでいるごみの減量を 3 点にまとめてきました。

1 点目はレジ袋の有料化です。平成 20 年度から大口町でレジ袋の有料化が始まっており、私どもも当初より参加しています。食品スーパーが主体だが、レジ袋の削減ということで、お客さまにマイバックでのお買い物にご協力いただいています。また少量の買い物には、精算済みのテープなどで対応し、袋を排出しない取り組みを行っています。ホームセンターはレジ袋の有料化はしていないが、同様に、極力レジ袋を排出しないようにしています。

2 点目は過剰包装の削減です。各スーパーの売り場の至るところにレジ袋があつたが、それも積み積み重ねればかなりのごみになる。今は必要な部分だけでの提供に移行してきています。総菜売り場などのバラ売り、以前だとビニールパックでの販売が多かったが、ごみになるので、環境に優しいエコビニール袋に切り替えています。

それから、お中元、お歳暮等も過剰包装になりがちなので、お客様より申し出があれば簡易包装で対応しています。

3 点目は裏方の部分です。以前は各メーカーや問屋から段ボールでケース単位の納品が主流だったが、自社の配送センターを使うことで納品の小分けが可能になった。折りたたみ式の通い箱

での納品に代わって、段ボールが3、4割ぐらい減って削減が進んできている。

**町長（森進）** レジ袋の有料化、過剰包装の抑制、自社の配送センターによるごみ減量の取り組みの紹介がありました。ごみ行政は、それぞれの市町村で実態違う。そういう中で、会社の方で統一的な取り組みをいただければ、ごみ減量に効果が上がる一つの方法だと思います。今後もよろしくをお願いします。

**サラダボール（遊佐弘毅）** サラダボールカンパニーは大口町のNPO登録団体で、2004年の愛知万博のときに、大口のイベントをサポートする目的でできた団体です。当時、大口町ではニカラグア・ナイジェリアとの親善イベントが行われて、そのサポートをしました。日常的には、大口町内あるいは近隣に居住する外国人との各種交流をやっています。その交流の一部に、外国人を対象にしたごみ分別の勉強会をやった。なぜそういうことをやったかということ、私自身が大口町の下小口というところに住んでいて、どういう位置付で住んでいるのか初めて分かった。役場があって、その下に区長、区会、組、班、さらに各個人が住んでいる。こういう仕組みを外国人は分かっているのかと思って、そういうコミュニティーの仕組みの理解をしてもらおうとしました。その中で、ごみを出すのに、外国の習慣などの違いがあるので、大口町の分類について理解してもらおうということで、ゲーム形式でごみの分類をリサイクルセンターでやりました。この体験を通して、「いいまち創ろう、意見交換交流会」として、彼らが何に困っているのか、こういうことがあるといいなあという声を掘り起こし、彼らのサポートが何であるか見出そうとしました。

説明会のときに感じたことは、衛生カレンダー、今はまちのカレンダーの中にある不燃物と資源ごみの収集と分別が日本語で書いてある。外国人は配られても分からない。これを中国語、スペイン語、ポルトガル語に翻訳しながら、当時の環境経済課とタイアップして、外国人の皆さんに配る活動をしてきた。

以上が、外国人を対象にしたごみ分別の勉強会です。スライドを見てください。

<遊佐氏、パワーポイントでスライド説明>

**町長（森進）** 大口町内にはNPO登録団体が34団体ある。それぞれの団体か地域で活動しています。いろんな立場で持てる力を発揮してごみ減量に取り組むことは必要だが、残念ながら現在は目標には達成していません。

外国人との文化の違いからトラブルが発生しがちだが、こうした取り組みをNPO団体が計画し実施していることに感謝申し上げたい。これからもよろしくお願いします。

環境課から、ごみの中身について報告させていただきます。

**環境課長（杉本勝広）** 大口町が独自で調査した結果、家庭から出されているごみを分析すると、リサイクル可能なごみ（プラスチック、ビニール・紙類）が41%、厨芥類が32%、純然たる可燃ごみが27%です。事業系は可燃ごみが44%、リサイクルごみが56%です。

**町長（森進）** 分別の方法は市町によって状況が違う。大口町は28分別、江南市は30分別と聞いている。リサイクルについても41%という実績があるが、さらに進めていかなければならないと感じています。

大口町は資源リサイクルセンターを開設し、ポイント制度を導入しています。資源ごみの分別に力を入れているが、現状、ポイント制度も含めて手詰まり感があります。現状のどういう点が問題で、どう改善すればいいか、あるいは今までの取り組み以外にもこういう方法があるという

ような可燃ごみ減量のアイデアがあればぜひ聞かせていただきたい。

紙とマジックがあるので、ご記入をお願いします。

＜パネリスト、パネルにキーワードを記入＞

**町長（森進）** 記入の時間をお借りして、スタンプカードについてお話しします。

さきほど 70%の方の利用があると紹介しましたが、ポイント制度導入のときには考えられなかった利用があり、その辺りの指摘を受けています。さりとて、その活用を排除するために制度を廃止するわけにもいかない。リサイクルセンターの開設に伴い、実績も上がっているのも事実だからです。24年度から、スタンプカード制の報奨について改正します。具体的には、72ポイント3,000円は年1回に限ります。導入当初は1年で1、2回と想定していましたが、現実には3、4回利用している結果があります。これはどうだという議論がある。一方で成果があるわけですので、見直ししながら、当分は制度を持続していきたいと考えています。

考えられなかった活用によって、残念な結果を招いていると思っています。ごみ減量、資源リサイクルという点で、我々が提案した事業についてご協力いただければと思っています。

それでは、パネルをお示してください。

＜町長、パネルを確認＞

**町長（森進）** ごみの処理費は1人当たりいくらかという質問があった。

環境課長、どれくらいですか。

**環境課長（杉本勝広）** 処理費用は、1トン当たり2万4,000円から2万5,000円をかけて燃やしています。

**町長（森進）** 今1トン当たり2万4,000円から2万5,000円と説明がありました。細かな分別で皆さんに手間をかけていますが、有効な資源として分別することによって焼却ごみは減っていくが、一方でリサイクルを進めれば進めるほどコストも掛かってくる。時代が変わればそのコストは下がっていくかもしれない。単純に、処分費とリサイクルにかかる費用を比較することはできないが、資源のない日本で、少しでも資源を有効活用するという観点で可燃ごみ減量に取り組んでいます。その点は理解してご協力をお願いしたい。

生ごみの含水量を下げるとのご意見がありましたが、現在の含水量は分かるか。

**環境課長（杉本勝広）** 60%ぐらいだと思います。

**町長（森進）** ご家庭で、水切りをどのようにやっているか現状をお聞かせください。

**下小口地区（西村里美）** 網に入れて、水が切れた状態にしてから可燃ごみに入れて出しています。

**中小口地区（松永宣子）** 家では三角コーナーを使わずに、ビニール袋の中に入れてから大きいごみ袋に入れて捨てています。水切りかごを使うと、シンクの中で水がかかって、逆に良くないと思っています。

**町長（森進）** このキーワードをお書きになった丹羽さん、お考えを。

**議員（丹羽孝）** 堆肥化にもつながるが、含水量が60%を切ると焼却に係る費用がかなり減ります。堆肥化にも60%ぐらいが適当だということです。生ごみの水分を切らないと臭いがつきまとう。家庭でできることは、堆肥化容器や段ボールを使った水きり、あるいはNPOでやっている「生ごみカラット」という商品があるので、町が斡旋するなどして、水分量を減らすことが必要ではないかと思います。結果、それが20パーセントの削減につながると思います。

**町長（森進）** 会場の中で、ご家庭での水切りについて、何か事例があればご発表いただければと思います。

<発言者なし>

**町長（森進）** 私どももごみの減量、リサイクル、堆肥化について、町としては広報に力を入れているつもりですが、「継続的な広報」と書かれた林部さん、何か具体的なアイデアあればお願いします。

**下小口区長代理（林部雅彦）** ホームページ、広報紙等で広報していると思うが、記憶ではダイオキシンの問題があったときに、ごみの問題が大きく取り上げられたが、いろいろな問題が出てくると、どうしてもそちらの方に興味が行ってしまいます。例えば、放射線とか、2018年の新焼却炉のこととか。ホームページや広報紙も大事だが、区会、組とか、班長会議というようなより細かなところで、現在こうなっているという内容とかを継続的に、今どうなっているかを広報する方が、より細かな意識付けができるのではないかと考えて指摘しました。

**町長（森進）** 先ほども大口町のごみに対する取り組みを時系列で紹介させていただきましたが、家庭で取り組んでいただけるような制度も設けて、ごみ減量に取り組んでいるわけです。特に生ごみの堆肥化ですが、いま一度環境課長から、大口町の助成制度、実績について説明をお願いします。

**環境課長（杉本勝広）** 生ごみ処理の助成は二種類あります。生ごみの堆肥化容器の上限は5,000円、処理機は4万円です。22年度実績で堆肥化容器6個、処理機6基です。現在までのトータルで堆肥化容器が504個、処理機が220基です。

**町長（森進）** 本日、多くの皆さんにご出席いただいています。会場の皆さんを含めて、生ごみ堆肥化容器の補助制度の活用にかかわらず、家庭で生ごみの処理について取り組んでおられる方は挙手をお願いします。

<挙手者あり>

**町長（森進）** ありがとうございます。環境課長から報告した実績が、この会場の中でも表れていると実感しました。この制度の理解をいただく形で周知に努めなければならないと感じています。私どもなりに広報、広報無線、町ホームページ等でお知らせしているが、できる限りこの制度を有効的に、制度の趣旨に沿った形でご利用いただければ大変ありがたい。そういうことが結果的に、細かなことではあるが、まち全体の目標達成につながっていくと思っています。これからもいろいろな機会を捉え、現在の制度について周知を進めていきますが、一人一人のご協力もお願いします。

「ごみの収集段階での細かな分別」と書いていただいた田中さん。もう少し具体的にお話していただけますか。

**バロー（田中浩幸）** 町長初め環境課の方々の、ごみを減らさなければならないという熱い思いはひしひしと伝わるが、果たしてごみを出す側にその思いが伝わっているのか。あまり感じられていない、そんな感想を持っています。

大口町ではいろいろな立派な施設を造られ、ごみの分別に取り組んでいる。一個人として感じたのは、「皆さん、その施設にごみを細分化して持ってきてください」というスタンスにもとれなくはないと思った。行政が、こういうふうにするから皆さん協力してくださいという上からの体制ではなく、ごみを出す我々一人一人が、ごみの問題は自分の問題として捉え、ある程度の痛み、

ごみを細分化するのは労力のいる作業だが、その辺の意識改革をすること、ごみの出す時点での細分化ということも重要ではないかと思い、意見として出しました。

**町長（森進）** 舟橋さんどうですか、今話を聞いて。

**外坪区長（舟橋孝昇）** 今バローさんの話を聞いて、やる側において細分化は本当に面倒だなあと思います。習慣になってしまえばいいが、面倒だからついつい入れてしまえということが今までもあったと思います。

ちょっと話は変わりますが、私ども外坪区は、昨年役場の方から3か月間生ごみ処理をしてというご依頼がありました。いろいろご意見がありましたが、3か月間なら何とかということで、区民の皆様にもご理解を願って、生ごみの堆肥化をやりました。当初は皆さん面倒だと、こんな面倒なことはというご意見があったわけですが、だんだん慣れてきて、最後は、そんなに大変じゃなかったというようなご意見も多くいただきました。というようなことで、習慣づけでだんだんにやっていけば、細分化もそんなに苦に思わなくなるんじゃないかということを感じました。

**町長（森進）** 今、外坪の舟橋さんから地域で取り組んだという話を伺いました。この取り組みについてはスライドでも紹介のあった河北上郷では既にさせていただいており、今も事業が継続されている現状があります。河北の区長さんがお見えですので、河北の取り組みの現状について、あるいは舟橋さんが言われたことについて何かコメントをいただけたらと思います。

**河北区長（大竹伸一）** 河北の方では、平成14年に生ごみを堆肥化しようということで取り組みました。当時始めた場所は郷中の集荷場のところでしたが、周りの方から臭いが気になるので場所を変えてくれという話があって、河北グラウンドの駐車場の一角を借りてやったこともあります。

現在、生ごみバケツは河北区の中で十数か所設置しています。月・木曜日の朝、生ごみを出していますが、残念ながら半数ぐらいで、全区民の方が出していただけると結構だが、せめて7割近くまでは賛同いただいて、可燃ごみと分けていただきたい。

ここに書かせていただきましたが、環境管理組合の焼却場の寿命が6、7年、今はだましながら修理して使っている。これが今にもパンクしそうで、壊れたら全く駄目になります。いかにこの焼却炉を延命させるかということで、そのためには可燃ごみを少しでも減らし、炉を助けるという気持ちを町民一人一人の方が持っていただければ、寿命も延びるし、経費も削減されると思う。

ごみの減量をどうしたらいいかということで言えば、体験作業はどうでしょうか。現状を体験して、減量しないかん、大変だと思っていただければ、そういう方向に進むんじゃないかと思っています。

**町長（森進）** 河北の大竹区長さんからお話を聞きましたが、宮田議員さん、河北の取り組みについて、合わせてお話ししていただけますでしょうか。

**議員（宮田和美）** 我々はなぜこの運動に取り組んだかということ、この河北地区には焼却場がある。当時は、建物があるのは地元にとって迷惑だというような意識が高かった。しかしそうした中で、被害者という意識ばかりじゃなくて、我々自身も加害者だというような意識を高めて、少しでも減量しようじゃないかという声が若者の中から上がり、「河北の環境を考える会」というものを発足しました。その活動は町からじゃなくて、下から広がった運動です。そういうようなことで、余計に団結が強かったというのが現状じゃないかと思っています。私が言いたいのは、皆さん一人一人がこの環境に対して加害者であるという意識を持っていただくならば、少しでも減

量に役立つのではないかと思います。

生ごみの方で水分を減らすというようなことも言われています。河北地区では生ごみ専用のバケツをいただいて、水を切ってから生ごみバケツに入れるという取り組みをしています。

皆さんも、自分も加害者であるという意識を持っていただけたらいいかと思います。

**町長（森進）** 河北区長、宮田議員から河北の取り組みについて紹介いただいたが、もう少し河北上郷という地域の取り組みの背景を紹介した方がいいかと思います。

河北上郷というのは、大口町の北の方、41号線の東側に位置する集落です。河北区には江南丹羽環境管理組合が管理する環境美化センターがあり、この環境美化センターの地元という感じの地域です。現在稼働している焼却施設にいろいろと手を加える、あるいは改修する段階には、河北上郷、犬山市楽田の地域の皆さんと「公害防止委員会」というものが組織されているので、その中でどうしていくんだという協議・報告をして、今の現有施設が運営されています。そういう中で、河北上郷がいち早く、自分たちで立ち上げて、生ごみの堆肥化・資源ごみの常時回収に取り組んでいます。ですから、宮田議員が言われたことというのは、大口町の地域の中に、江南市、扶桑町を含んだ焼却ごみ施設があるという部分では大口町は被害者かもしれないが、河北上郷、楽田という地域から捉えれば、大口町の河北上郷以外は加害者であるというような捉え方ができるという話だと思います。

この種の施設というのは、非常に技術が進んでいて、東京や名古屋などの大都市に行けばまちの真ん中にも施設があり、既に稼働している事例が全国的にはいっぱいあるが、施設に対するイメージが先行してしまっていて、必要だということは十分に認識・理解しているが、それが自分たちの生活の範囲、生活している間近なところに来るとということに関しては、大変なアレルギーがあるのは現実だと思っています。

そういうものがなくなっていいかということ、それは困る。そんな議論もあった。河北の堆肥化に取り組んでいる河北エコステーションという施設についても、本当は試行的にスタートさせて、その状況を住民の方に見ていただいて、ご理解をいただく中で、大口町として1か所でこのような施設を構えてやるのか、ある程度地域に分散させて堆肥化するのがいいかということも念頭にスタートしたわけです。

ところが、残念ながら処理方式、分散・集中でやるという議論だけがされている雰囲気があり、河北で試行的に始めた堆肥化の事業も、現在の河北や一部の地域で実施されているだけで、大口町全体に広がるまで至っていません。自分で出した生ごみを自分の見えるところで堆肥化することによって、農地に還元できるというのが好ましいのではないかという考え方もあって、そのような取り組みを河北の地域で継続して取り組んでいます。できた堆肥を持って帰って農地に還元する。農地で出来た作物を町のイベント等に出して、あるいは漬物にして出していただくというところまで循環しているという現状があります。

こういうことをそれぞれの地域で取り組むことができると、大きな循環型社会という考え方の中での成果につながっていくのではないかと思います。

外坪の区長さんから報告があったように、3か月という試行はお願いできたが、それを新年度から継続的に取り組んでいこうという結論には至っていません。どこに問題があるのか、私どもも他の地域へお声掛けさせていただき今後のこともあるので、十分に分析等をして、どのように話を持っていけば一緒に堆肥化に取り組むことができるのか、常時回収に取り組めるかを考えて

いきたいと思います。

私どもからのアクションだけではなく、ご出席いただいている地域のみなさん、私の地域出で取り組んでみたいというご希望があれば、環境課まで申し出いただければ、私どもと一緒に頑張って、生ごみの堆肥化、常時回収への取り組みも、大口町全体に広げていきたいと思っていますのでご協力をお願いします。

今までいろんな話をさせていただきましたが、初めてのことでポイントのずれたお話をさせていただいている向きがあるかもしれません。パネリストの皆さんの中で、キーワードを含めてご発言があればお願いしたいと思います。どうでしょうか。

**議員（宮田和美）** 私は「地区別減量ポイント制を考えたかどうか」と思います。なぜごみが減らないか、これは減量しても評価がないからです。スタンプカードは70%の方が利用しているという報告があった。このポイント制には3,000円というメリットがあるからだ。個人に町の税金を使うより、地域に還元した方がいいんじゃないかと、減量した分だけ町の方から補助金を出す取り組みをしていただい方がいいんじゃないかと思っています。だから、各地区で取り組んでいただいた評価を、広報等で周知してもらおうようにしたら、もっと減量につながるんじゃないかと思っています。地区全体で取り組んでいただいたら、もっと減るんじゃないかと、達成できるのではないかと思い、「地区別減量ポイント制を考えたかどうか」と書かせていただきました。

**町長（森進）** 先ほどのスライドの中で、平成18年から22年度までの各行政区別の資源ごみの回収助成金の交付状況を一覧表でお見せしました。22年度では、行政区と各種団体を合わせて670万円余交付しています。

今日、外坪と河北の区長さんにご出席いただいています。町から交付している資源ごみ回収助成金が行政区の中でどのように活用されているのか、現状が分かり、支障がなければお話していただけると助かります。お願いできますか。

**外坪区長（舟橋孝昇）** 外坪区では1年間トータルして22年度は15万3,000円何某という助成金をもらっています。区としては、地区ごとの戸数にあわせて、2分の1の金額を地区に、残りは区の経費にさせていただいています。

**河北区長（大竹伸一）** 河北では、常時回収と第1と第3の資源ごみの回収により、22年度は33万8,000円いただいている。地区で活動している団体のお役に立てればということで、地区内の団体に交付しています。団体で活動している方が、自腹を切って行事に参加することは継続できることではないので、団体の助成金として、少しでも交付させていただきたいと考えています。

話は変わるが、新聞屋さんが古新聞を回収しています。2月10日でしたが、宮田議員と私で新聞を出している箇所を数えたら46カ所あった。1軒につき平均4キロぐらい。これを地区に還元したら、もっと楽になる。今後、新聞屋さんに出していただくものを、地区の資源ごみ回収に出していただければ大いに活用できるので、次年度への申し送りも考えて進めていきたい。参考までに、南部の方は回収してないそうです。北部だけが月1回新聞屋さんが回収している。出すのをやめるとは言えませんが、少しでも地区の方に出してもらおう方向にもっていきたい。

**下小口区長代理（林部雅彦）** 下小口では助成金を各組の戸数割で平均を按分して、各組の活動に費用全額を当てています。

**町長（森進）** 資源ごみの回収に係る助成金については、それぞれ行政区の中で、組あるいは区全体の活動の中で有効的にご活用いただいている現状も、本日ご出席の皆様にも十分ご理解いた



だけたのではないかと思います。

お話がありましたように、いろんな資源を大切にするという動きがあり、新聞販売店が古新聞を回収していることも承知していますし、事業所において独自で回収していただけるようなこともやっていただけています。いろんな取り組みをしていただけていますが、ごみの問題については、それぞれの市町村がやらなければならない責任があるわけです。そういう中で、これからもごみを出される方はもちろん、町内の企業、さらには各種団体の皆さんと協力して、ごみの減量、リサイクルの充実、生ごみの堆肥化について継続的に取り組んでいかなければならないと思います。

今日、いろんなお話させていただく中で、生ごみの話であったり、分別であったり、リサイクルであったり、話があちこちに飛んでしまったわけですが、もう少し整理して、次回はお話ができるようにしたいと感じています。

最後に、今回の地域懇談会について何かご意見等がありましたら、パネリストの皆さんを初め本日ご出席の皆さんにもアンケートにご記入いただき、提出していただければと思います。

最初にお話すべきことであったかもしれませんが、大口町のまちづくり条例の規定に基づく地域懇談会は2年ぐらい実施しています。実施方法はこのような形ではありませんでした。以前は、それぞれの行政区の学共に出掛けて、行政区単位で地区懇談会という形で実施していましたが、大口町を三つの地域に分けて、北・中・南というおおむね小学校区単位になるわけですが、三つの地域ごとに企画しました。どうい話をするのかということも、生活に密着した話をする方が一人でも多くの方に参加していただけるのではないかとということで、ごみ問題をテーマに実施しました。忌憚のないご意見をいただければ、次回以降の開催等について、皆さんとより意見交換ができるような形で取り組んでいきたいと思ひます。

ごみの問題は、大口町独自の取り組みと近隣市町での取り組みが必要になってきます。その一つが、江南丹羽環境管理組合の環境美化センターで、この設置あるいは運営は広域での取り組みです。広域での取り組みの現状について、もう1本スライドを見ていただきたいと思います。

<環境課長、スライド「可燃ごみ焼却処理場の現状」に基づき説明>

**町長（森進）** 広域でのごみ処理場についてはこのような状況になっています。平成22年5月25日に、犬山市の候補地で焼却処理施設を建設していく、平成30年に供用開始するということろまで決まっていますが、それ以降、地元の反対もあり、22年9月12日に地元説明会を1回開催したきりになっています。2市2町の準備室、犬山市の担当部局が候補地周辺の皆さんとろんな話し合いを積み重ねてきましたが、この施設建設について全く話ができなかつた。それがやっと、2月25日に、全ての地域ではないが一部の地域において説明することを受け入れてもらいました。4人の首長が揃ってお邪魔して、事業・経過について説明させていただくという場ができました。平成30年度の供用開始の目標を持っているが、非常厳しいスケジュールになっている。一日も早く話し合いができる空気、雰囲気、場づくり積み重ねて、事業の推進に努めていきたいと思ひています。

もう一つ、お話ししておかなければならないことがあります。この2市2町の中に、江南市、大口町、扶桑町による江南丹羽環境管理組合の施設と、犬山市が単独で施設を持っています。基本的にはこの二つの施設がなくなって新しい施設で供用開始になりますが、現在の江南丹羽環境管理組合の敷地には最終処分場があります。この最終処分場の施設は新しい施設が出来ても当分

の間存続します。この取り扱いを今後どうしていくんだということは、引き続き話をするということになります。大口町として、きちっと進めていかなければならない大口町としての課題・テーマと思っています。

それでは、今日予定していたごみ問題にかかる意見交換については、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

**地域振興課長（平岡寿弘）** パネリストの皆さん、傍聴者の皆さん、長時間にわたりありがとうございました。最後になりますが、本日のテーマに対して、ごみ減量の取り組み、あるいは地域懇談会のあり方について、皆さま方のご意見・お声を伺えたらと思いアンケートを用意していますので、アンケートにご記入いただければと思っています。

これもちまして、地域懇談会を終了させていただきます。ありがとうございました。